

# 外国籍県民かながわ会議（第13期・第12回） 議事録

開催日：2026（令和8）年8月2日（日曜日）  
場所：神奈川県庁 東庁舎 111～113会議室

## 1 開会（事務局）

今回はかながわ国際政策推進懇話会との合同会議のため、懇話会の柏崎会長と県民かながわ会議の柳委員長からそれぞれ挨拶をした後、会議のルールと進め方、会議の録音、欠席者及び配布資料等について説明した。

## 2 かながわ国際政策推進懇話会との合同会議（事務局）

「合同会議資料1」外国籍県民かながわ会議（第13期）部会別の提言素案及び「合同会議資料2」提言構想メモの要約版について、外国籍県民かながわ会議から説明をお願いしたいと思います。

（外国籍県民かながわ会議から「合同会議資料1」「合同会議資料2」について説明）

（柳委員長）

これから質問や意見を伺いますが、時間が限られています。取組を補強できるアイデアや実践例があれば、教えて欲しいです。ここ1年半ぐらいで目まぐるしく変わる環境も踏まえて、今後の提言作りに向けて大事にした視点や助言があれば御意見をいただきたいと思います。

（三坂委員）

生活向上部会②の提言「多文化共生社会を見据えた県立高校における「異文化教育」と「母語（継承語）教育の推進」」は、とても大事な取組だと思いますが、県立高校のモデル事業では、誰が教えることになりますか。また、講師と学校をつなぐコーディネーターも必要となります。私が代表を務める Sharing Caring Culture は、県との協働事業において、新栄高校で多文化共生ワークショップのモデル事業を実施しました。9クラス 300

めいじょう せいと いちど おし  
名以上の生徒に一度に教えるように言われましたが、ファシリテーターの  
かく ほ ちょうせい むず じぎょうか かんが  
確保や調整が難しかったです。事業化するにあたり、どのように考えてい  
るか教えてほしいと思います。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

がいこくせきけんみん がいこく かた とうじしや おし  
外国籍県民・外国にルーツのある方といった当事者が教えるイメージで  
ていげん がつこう おし しかく ひつよう せいげん  
提言にしています。ただ、学校で教えるにあたり資格が必要など、制限があ  
るかもしれません。当事者と先生がそれぞれできる部分、それ以外の方がフ  
ォローできる部分を 補い合いながら、生徒に伝えられるのが一番良いと思  
います。実際に神奈川県内で育ってきた外国にルーツのある若者がそのよう  
な場に積極的に出ていくことで、次の世代の子どもにとっての良い刺激に  
なります。

よういん  
(楊委員)

ぜんたい とりくみ れい か ていげん ぐたいれい か  
全体について、取組の例と書かれている提言と、具体例と書かれている  
ていげん つか わ  
提言とありますが、使い分けはありますか。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

わ じっし ぐたいれい か ばあい  
分けていません。すでに実施されている具体例を書いている場合もあれば、  
こういうやり方があるのではと書いている場合もあります。趣旨を理解いた  
だき、どうすれば実現できるか一緒に考える過程で形を作られたら良いで  
す。ここでは、あくまで参考として見ていただければと思います。

よういん  
(楊委員)

せいかつこうじょうぶかい こう せんていとう ぐたいてき か  
生活向上部会②については、モデル校の選定等がかなり具体的に書かれ  
ています。一方で、生活向上部会①では内容を充実させるといった記載に  
とどまっています。具体的に書いた方がイメージは伝わりやすいと思います。

また、生活向上部会⑥で想定しているAIは何でしょうか。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

ぐたいてき もち ていあん  
具体的にこのAIを用いるという提案はありません。

よういん  
(楊委員)

せいかつこうじょうぶかい たと なつまつ とう さんか がい  
生活向上部会⑦について、例えば夏祭り等に参加するだけではなく、外  
こくせきけんみん さんかく しゅさい がわ ほ  
国籍県民がイベントに参画し、主催する側になって欲しいです。

いん  
(バ委員)

さんか あたら ともだち にほんご  
参加することで新しい友達ができ、日本語もできるようになります。  
しゅさいがわ まわ さんかしや ふ こうけん  
主催側に回することで参加者を増やすことにも貢献できます。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

きかく じっし がわ さんか そうてい  
企画や実施する側として参加することも想定しています。

たかはしいん  
(高橋委員)

じゅうよう してん ていげん おも ていげん う ぐたいか  
重要な視点で提言がまとめられていると思います。提言を受けて具体化  
するために、どのような手続を踏むのが良いか検討が必要です。

たと せいかつこうじょうぶかい いぶん かきょういく すいしん けいけん はしもと  
例えば、生活向上部会②について、異文化教育の推進の経験として、橋本  
こうこう とうじ こくさいこうりゅう れんけい がいこく  
高校にいた当時、さがみはら国際交流ラウンジと連携し、外国ルーツの  
せいかつしゃ かく めいしょうせい じかん じゅぎょう  
生活者を各クラスに1名招請し、1時間授業をしていただきました。その  
さい せいとがわ がいこく せいと きょうりよく う じぜん しょうせいしゃ  
際は、生徒側も、外国ルーツの生徒の協力を受けながら事前に招請者の  
くに しら はつびょう とう こんかい ていげん おな ないよう おこな  
国について調べて発表する等、今回の提言と同じ内容を行いました。その  
けいけん ぜんたい めい こうえん しょうせい  
経験からすると、全体で1名による講演ではなく、クラスごとに招請して  
はな かた ちいき くに じょうきょう ふ おこな かたち よ  
話す方のルーツの地域や国ごとの状況を踏まえて行うような形が良い  
ので、講師のキャラバンチームがあるのが望ましいと思います。団体同士で  
れんけい さまざま くに ちいき かた こうし さんか  
連携して、様々な国や地域の方が講師として参加できるようなプログラムを  
く よ おも  
組むと、とても良いものができるのではないかと思います。

また、じょうほうぶかい しょぞく こうこうしんがく  
情報部会①について、所属するME-netでは、高校進学ガイダンス  
の情報を公開しました。この10言語の翻訳は全てAIで行っていますが、  
じょうほう こうかい げんご ほんやく すべ おこな  
精度の向上に4回程度の確認を要しています。当団体の理事はそうした  
せいど こうじょう かいていど かくにん よう とうだんたい りじ  
技術的な知見を持っていますが、AI技術等の活用には、技術的な部分を詰め  
ぎじゅつてき ちけん も ぎじゅつとう かつよう ぶぶん つ  
ていくような作業が必要になると思われます。今後、AIを使って多言語情報  
さぎょう ひつよう おも こんご つか たげん ごじょうほう  
を提供するための技術的な問題を議論していく場が必要となると思います。

かさまいいん  
(笠間委員)

せいかつこうじょうぶかい ていじゅうご あたら かだい こうれいか  
生活向上部会⑤について、定住後の新しい課題として高齢化があります。  
ひとりひとり よ そ じょうほうていきょう だいじ じっし  
一人一人に寄り添った情報提供が大事で、それはセミナーの実施だけでは  
むずか さき そうだん ふ こ  
難しいので、その先の相談までつなげることができれば、もっと踏み込ん  
でいくことができると思います。

また、じょうほうぶかい すば おも おお  
情報部会①については、素晴らしいアイデアだと思います。多くの  
じょうほう せいり くわ じょうほうしゅとく さい いりぐち  
情報を整理することももちろん、それに加えて情報取得の際の入口を  
せいび だいじ ふくおかけん じっし そうだん  
整備するのも大事です。福岡県が実施する「FUKUOKA IS OPEN」という相談  
しえん し く さんこう  
から支援までつなぐ仕組みが参考になります。

さいご せいかつこうじょうぶかい ほんじつ れいわ ねん がつ にち かわさき  
最後に、生活向上部会⑦について、本日(令和8年8月2日)、川崎市で  
しな い じん ちゅうしん きかく かわさき  
市内のベトナム人が中心となって企画した「川崎ベトナム・サマーフェス  
2026 in ふじみこうえん かいさい かわさき きょうりよく  
富士見公園」が開催されます。こちらは川崎フロンターレも協力

しているもので、ベトナム人の方々が川崎市や川崎区役所や企業を巻き込んで行っているので、具体例として参考になると思います。

(小島委員)

生活向上部会①と②については、母語・継承語の重要性という点に関しては、文部科学省も同じ方向性で動いています。私も開発にかかわりましたが、2025年4月に文部科学省から「ことばの力のものさし」が発表されています。これは、子どもたちのことばを育てていくための指標でありまして、今まで日本語指導が必要であるとみられてきた子どもたちをマルチリンガルとして捉え、その力を育てていくという考え方のものです。今、学校現場ではそうした視点で、母語や母文化、継承語も含めて子どもが持つすべてを活用して言葉を育てていこうという教育活動が全国的に広がっており、国としてもそうした位置づけであることから、その点を提言に含めてはどうかと思います。

生活向上部会③については、在県枠の学校数を広げるのも大事ですが、選抜方法そのものの在り方について、例えば、子どもたちの強みを評価して、活かしながら高校入試に繋げていくといったことなど、会議で意見はあったのでしょうか。

(兪委員)

高校入試は倍率が低く、選抜されるようなことはあまりないと思っています。

(小島委員)

例えば大阪府では、特別入試枠の科目が数学、英語、作文で、作文は日本語以外の使用を認めるとされています。高校入試での評価においても、子どもたちの強みで評価するという動きといえます。具体的な入試の方法の在り方についても、議論していただけると提言が深まるのではと思います。

また、生活向上部会⑦では、孤独・孤立の解消についても提言されているところですが、出入国在留管理庁にて2020年度から毎年外国人2万人を対象とした調査を実施しており、その回答から、外国人が孤独・孤立を抱えているという状況が示されています。外国人の声、実態、現状を県から発信することが、日本で暮らすすべての外国人の暮らしの改善にもつながるため、より具現化した提言にできればよいと思います。

(柳委員長)

もし更に追加の御意見があれば後からでも教えてほしいです。提言は12

が 月 に 提 出 と な り ま す が 、 来 期 以 降 に 引 き 継 ぐ こ と も 視 野 に 入 れ な が ら 、 よ  
り 良 い も の を 目 指 し て 頑 張 っ て い き た い と 思 い ま す 。

(事務局)

意 見 に つ い て は 、 国 際 課 を 通 じ て も 構 わ な い の で 共 有 し て い た だ け れ ば  
と 思 い ま す 。

次 に 議 題 の 2 点 目 は 、 可 那 加 国 際 政 策 推 進 懇 話 会 か ら お 願 い し た い と 思  
い ま す 。

(柏崎会長)

懇 話 会 で は 、 「 多 文 化 共 生 の 推 進 に 向 け た 情 報 発 信 」 と い う 議 題 で 議 論  
を 進 め て い ま す 。「 合 同 会 議 資 料 3 」 多 文 化 共 生 の 理 解 醸 成 に 向 け た 取 組  
に つ い て 、 事 務 局 か ら 説 明 を お 願 い し ま す 。

(事務局から「合同会議資料3」について説明)

(柏崎会長)

社 会 の 中 で 多 文 化 共 生 に 対 す る 意 識 を 醸 成 す る こ と が 必 要 で あ り 、 主 に  
マ ジ ョ リ テ ィ 側 に 発 信 し て い く こ と を 企 図 し て い ま す 。 内 容 に つ い て 、 質 問  
や 意 見 を お 願 い し た い と 思 い ま す 。

(韓委員)

期 間 を 決 め て 実 施 す る と い う 点 で 、 月 間 は よ い で す が 、 月 間 の 名 前 を 聞 い  
た こ と は あ っ て も 、 時 期 を 覚 え て い な い 、 内 容 が 知 ら れ て お ら ず 浸 透 し な い  
と い う 課 題 が あ る か と 思 い ま す 。 ど の よ う に 広 報 す る か が 課 題 に な る と 思 い  
ま す 。

(柳委員長)

月 間 に よ り 、 今 ま で 届 か な か っ た 人 に も 届 く で し ょ う 。 イ ベ ン ト だ け で は  
な く 、 懇 話 会 や 県 民 会 議 な ど 、 多 文 化 共 生 を 目 的 に 実 施 し て い る 会 議 も 広  
め て い け る と 良 い と 思 い ま す 。

(柏崎会長)

企 画 し て も 知 ら れ な い と 意 味 が な い と い う 課 題 は 、 今 後 も 内 部 で 議 論 し て  
い き た い と 思 い ま す 。 ま た 、 単 発 イ ベ ン ト だ け で は な く 、 関 連 す る 事 業 や 取 組  
の 情 報 も 載 せ ら れ れ ば よ い と 思 い ま す 。 引 き 続 き 話 し 合 っ て い き た い と 思  
い ま す 。 ま た 、 報 告 書 の と り ま と め に 向 け て 参 考 に し て い き ま す 。

(事務局)

皆 様 あ り が と う ご ざ い ま し た 。 以 上 を も ち ま し て 、 合 同 会 議 の 議 題 を  
終 了 さ せ て い た だ き ま す 。

### 3 外国籍県民かながわ会議（単独会議）

#### (1) 生活向上部会

#### ア 全体的な書き方と生活向上部会—①、②について

（柳委員長）

- ・ 合同会議での懇話会委員からの意見を受け、母語に関する国の動きを追記する。また、具体的な取組の例を書くよう意見をいただいたが、「書かれている内容を済ませればよい」とならないように、あえて具体化しなかったという経緯がある。

（王委員）

- ・ この提言に限らず、全体的な書き方のことになるが、取組の例は、既にも他県などで実施済みの事例か、私たちのアイデアによるものか、分かるように書いた方がよいのではないか。

（韓委員）

- ・ 例については、他県の例、県内の例、アイデアの例に分けられる。他県の例は後押しになるかもしれないが、なくしてもよい。

（蔣副委員長）

- ・ 他県がやっているから神奈川県でも、というように見えることが考えられるので、他県の例は書かなくてもよいのではないか。そうではなく、神奈川県が必要だからしていくように、という形で主張したい。

（王委員）

- ・ 他県の例、という表現ではなく、参考例や既にある施策の参考にしやすい例、というような書き方にしてはどうか。取組の例という形ではなく、既存の参考例という言い方にすることで、他県が行っているから神奈川県でも行くと受けとられる誤解を避けられるのではないか。

（韓委員）

- ・ 提言の趣旨の下に取組の具体案を入れ、この趣旨に沿って、こういう取組の案があるという構成にする。こういうものも考えられる、こういうふうに進めましょう、こういうこともあるだろう、など、現在記載されている例のレベル感に幅があるので、そうした部分を整理して、具体案と例を分けて記載した方がよい。

（柳委員長）

- ・ 提言の全体的な書き方として、私たちのアイデアや県内の実施している事例については本文部分に、他府県の事例は提言の下方に参考情報と

- して記載する。私たちのアイデアについては具体案という表現にする。
- 生活向上部会①、②の提言については、「ことばの力のものさし」などの国の動きを提言の後押しのために入れる方向にはするものの、私は、学校の授業での母語・母文化教育に対する支援と、子ども自身の学びとは別だと思っているので、調べた上で、関係する部分のみ、記載することとしたい。
  - 生活向上部会①、②はまとめて整理し、異文化教育の担い手については提案者である李周殷委員とも相談する。

## イ 生活向上部会－③について

(柳委員長)

- 合同会議での懇話会委員からいただいた意見は、外国につながる子どもの実態に合わせた入試選抜の方法も考えてほしいというものだった。この指摘は重要だが、今回の提言は在県外国人等特別募集の募集枠数を増やすという方向のものでよいのではないかと。必要であれば、次期で検討いただきたい。

(愈委員)

- 在県枠の拡大と入試選抜方法の検討のどちらも書くとうわかりにくいので、このままでよい。

## ウ 生活向上部会－④について

(事務局)

- 県警側に提言案の確認をお願いしたところ、手続きの円滑化に向けた取組において他自治体の例を参考にすることや、具体的な待機時間の記載について、削除するよう要望されたので、それを反映したものにしていく。

(王委員)

- この内容でよい。

## エ 生活向上部会－⑤について

(柳委員長)

- 合同会議では懇話会委員から相談窓口もあった方がよいという意見をいただいたが、次期の検討課題にしてはどうか。

(倉橋委員)

- ・ セミナー等であれば実施は比較的容易だが、窓口を常設するとなるとすぐには難しいと思われるので、次期の検討課題とする。
- ・ 永住者の在留資格を持つ人数が今後増えていくのではという想定で提言を記載していたが、国の制度の変更等もある。そうした表現のままではよいか。

(韓委員)

- ・ VISA更新料の値上げについては、値上げによって人数が減るようなことはあまりないと思われる。国策として日本は外国人を増やしていく方向であるので、永住者も増えていくという書き方でもよいのではないかな。

(ストービー委員)

- ・ VISA更新料を会社が支払う場合もある。

(事務局)

- ・ 外国人が増えていくということは見込まれるので、提言の記載として「永住者の外国籍県民」ではなく単に「外国籍県民」としてはどうか。

(倉橋委員)

- ・ 「永住者」の表現は削ることにする。

(李方舟委員)

- ・ 永住者でない場合はやはり在留に年限があり、年金等の問題は基本的に起こらないのではないかな。

(倉橋委員)

- ・ 在留を続ける場合も帰国する場合も、日本・帰国先ともに制度・手続きを調べることや、お金の問題などしなければならないことが多いので、そうしたことを知ることができるようにしないとイケない。

(柳委員長)

- ・ 在留や帰国に係る制度や年金のことなどは現段階で情報もまとまっていないので、次期でそうした提言をしていただければと思う。

## オ 生活向上部会⑥について

(柳委員長)

- ・ 合同会議で懇話会委員から質問のあった、用いるAIの種類についてだが、これまでも特定のものという話はなかったもので、一般的なものとし

げんてい  
て限定しないこととする。

いいん  
(バ委員)

- どういう方法で AI を導入するのにかについても書く必要がある。

しょうふくいんちょう  
( 蔣 副委員長)

- 記載されている AI 導入のイメージが具体的ではない。

はんいいん  
(韓委員)

- 日本語教育、職業訓練、人材確保と話が広がりすぎているので、ドン委員が本当に進めたいものは何かを整理し、AI の導入の仕方について具体化する必要がある。ステップアップ形式または情報の集約を行って、記載していただきたい。

りゅいいんちょう  
(柳委員長)

- ドン委員に今回の議事録を共有し、事務局と相談しながら記載を調整していただく。

## カ 生活向上部会⑦について

りゅいいんちょう  
(柳委員長)

- 合同会議では懇話会委員から、外国籍県民も主体的にイベントに関わってはどうかという意見があった。

いいん  
(バ委員)

- 外国籍県民がイベントに参画することで、友人、知り合いを誘い、参加人数を増やすこともできる。川崎市のイベントを事例として記載してはどうか。

しょうふくいんちょう  
( 蔣 副委員長)

- 川崎市がベトナムに限定したイベントをするのは今回が初めて。これ以外にも、外国人と日本人で連携して多文化交流フェスティバルなどを実施しており、そのチームが経験を活かして川崎のほかのフェスティバルに出展することもしている。こうしたことも追記するとよいと思う。

りゅいいんちょう  
(柳委員長)

- 外国人と日本人でいっしょにイベントを実施するだけでなく、その後に交流が続いていくようなことについても、書いた方がよい。

しょうふくいんちょう  
( 蔣 副委員長)

- 活動支援として、NPO等に支援金を助成する制度を持つ市町村もある。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

- 神奈川県にもかながわボランティア活動推進基金21等、制度がいろいろある。そうしたものを<sup>つか</sup>使うとしても、<sup>ひと</sup>どういう人たちが<sup>ちゅうしん</sup>中心になってイベント等<sup>など</sup>を<sup>おこな</sup>行うかという、<sup>しゅっぱつてん</sup>出発点の部分が<sup>だいじ</sup>大事になる。

しょうふくいんちょう  
(蔣副委員長)

- ぜひ<sup>かつどう</sup>こうした活動について、<sup>いいん</sup>バ委員がリードして<sup>いってほしい</sup>。

りゅういんちょう  
(柳委員長)

- 孤独<sup>こどくかいしょう</sup>解消の<sup>とりくみ</sup>取組については、<sup>ごうどうかいぎ</sup>合同会議での<sup>こんわかいいいん</sup>懇話会委員からの<sup>いけん</sup>意見でも、<sup>くに</sup>国の<sup>ほうこうせい</sup>方向性もあるので<sup>ひ</sup>引き<sup>つづ</sup>続きして<sup>いってほしい</sup>、<sup>な</sup>とのことだったが、<sup>な</sup>何か<sup>ついか</sup>追加することはあるか。

り はこぶねいん  
(李方舟委員)

- <sup>ごじょかい</sup>互助会を<sup>じっさい</sup>実際に<sup>うんえいとう</sup>運営等する<sup>さい</sup>際には、<sup>せんもんか</sup>専門家に<sup>き</sup>聞いたり、<sup>じぜんめんせつ</sup>事前面接や<sup>はつげん</sup>発言の<sup>き</sup>テーマを決めて<sup>き</sup>おいたりすることが<sup>じゅうよう</sup>重要になるが、<sup>ていげん</sup>提言では<sup>ちゅういじこう</sup>そうした<sup>きさい</sup>注意事項までは<sup>きさい</sup>記載しないこととする。

## キ せいかつこうじょうぶかい 生活向上部会－⑧について

はんいん  
(韓委員)

- 今、<sup>いま</sup>内容欄にある「<sup>しゅようきのう</sup>ネットワークの<sup>れい</sup>主要機能の例」を「<sup>とりくみ</sup>取組の<sup>あん</sup>案」とし、<sup>さき</sup>先ほどまで<sup>はな</sup>話していた<sup>けいしき</sup>形式に<sup>ていげん</sup>提言の<sup>か</sup>書き方を<sup>かた</sup>そろえることとしたい。

## (2) じょうほうぶかい 情報部会

しょうふくいんちょう  
(蔣副委員長)

- <sup>ごうどうかいぎ</sup>合同会議で<sup>こんわかいいいん</sup>懇話会委員から、<sup>じょうほうこうかん</sup>AIについて<sup>ば</sup>情報交換する<sup>かん</sup>場に関する<sup>いけん</sup>意見が出たが、この<sup>ていげん</sup>提言は<sup>かん</sup>AIに関する<sup>こうこうしんがく</sup>ことではなく、<sup>じょうほう</sup>高校進学<sup>とど</sup>ガイダンスで<sup>じょうほう</sup>情報を<sup>しく</sup>届ける<sup>じゅうてん</sup>仕組みが<sup>い</sup>重点となるので、<sup>い</sup>入れなくてもよいのではないか。

- <sup>じょうほうはっしん</sup>情報発信の<sup>こうもく</sup>項目については、<sup>きさい</sup>FUKUOKA IS OPENの<sup>さんこうれい</sup>記載を<sup>きさい</sup>参考例として<sup>くわ</sup>加えたい。

いん  
(ストービー委員)

- <sup>やくば</sup>役場の<sup>しよくいんすう</sup>職員数が<sup>すく</sup>少ない<sup>しょうきぼ</sup>小規模の<sup>まち</sup>町で、<sup>せいかつ</sup>生活オリエンテーションを<sup>かんが</sup>どうするか<sup>かんが</sup>考えたい。

(バ委員)

- ・ (例えば真鶴町では) どのような人が移住してきているのか。

(ストーリービー委員)

- ・ (真鶴町では) 日本語を話せない人や、難しく感じる人が移住している。どこも同じ状況だと思う。窓口や受付が変わる必要があるのではないかと思うが、次期の検討でよいかもしれない。

(蔣副委員長)

- ・ 入管の生活オリエンテーションを参考として記載してはどうか。

(倉橋委員)

- ・ 入国してすぐの外国人が入管のホームページにたどりつくようなことは難しい。例えば、行政の手続きの間に待合室で生活オリエンテーション動画を流すなどしてくれれば、外国人の目にもつきやすい。

(柳委員長)

- ・ 役所の窓口をどうするかということについては、具体的なアイデアとして可能であれば今回の提言に追記する。そうすれば、県として市町村をどうサポートできるかという話にもつながる。

(蔣副委員長)

- ・ 情報発信の項目については、FUKUOKA IS OPEN と入管ホームページの生活オリエンテーション動画を参考として記載したい。ストーリービー委員の御意見にあった役所の窓口をどうするかについては、市町村によって差があるので難しいと思う。

(柳委員長)

- ・ 市町村によって差があるという点については、既に提言案に記載しているのよいと思う。

### (3) まとめ

(柳委員長)

- ・ 全体を通して、書き方の整理をする部分と今回の提言に入れていくこと、そして、次期に持ち越す内容ということで話ができたので、そうした部分を反映して修正し、次の会議に出すこととする。本日の欠席者も含めて全員に、事務局から議事録を共有するので、提言案の修正や調整に役立ててほしい。

#### (4) その他

##### ◎ あーすフェスタへの参加について

(柳委員長)

- ・ 県民会議として昨年ブースを出したが、今年はどうするか。8月末までに企画をある程度確定させる必要があるが、県民会議のブースを出す意向があれば、実行委員会に話をしておくが、いかがか。また、ブースを出すだけでなく、広報の面で、県民会議としてあーすフェスタに協力できることもあるのではないかと個人的には思っている

(出席委員)

- ・ 合意

(柳委員長)

- ・ それでは、県民会議としてブース参加する方向で実行委員会と調整する。